

兎岳遭難(2022年7月)

単独の男性、登山歴約30年、地元遭対協のメンバーで、リスクに対処できる装備と経験があったが道迷い。救助要請後6日後に無事、自力下山した。



解説

男性は10日朝に聖平小屋から聖岳と兎岳に登頂し、下山中に濃い霧のため道に迷いました。非常食と野草を食いつなぎ、沢の水を飲みながら、悪天候のため少しずつ下山したそうです。2度滑落しましたが大きなケガはありませんでした。

生還から約1カ月後の中日新聞で、「迷い込んだ谷ではスマートフォンも携帯ラジオもつながらず、充電も尽きかけた」とエピソードが紹介されています。該当する谷は遠山川の西沢しか考えられませんが、滝やゴルジュ(岩の廊下)のある沢ですから、相当困難で危険な下降だったと想像されます。

男性は登山歴約30年、地元遭対協のメンバーでもあり、リスクに対処できる装備と経験がありました。食料は4日分持参していたそうです。スマートフォンや携帯ラジオが使えないなかで、予備として持っていた紙の地図が頼りになったと言っていました。迷ったとき沢に下らずに登り返すことが、上級者でもいかに難しいかという教訓も示しています。(HP参照)

ベテランでも気象条件によっては、道迷いをしてしまうといった事例。私も、気象条件や積雪等の条件によっては、冷静さを失うこともありうるので、肝に銘じたい。